

【遠別地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●地元水産物を使用した新たな加工品の研究・製造開発（継続事業）

(1) 水産物を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農林水産物の相互連携と産業の育成構想 地元水産物の域内消費の拡大、特産品の開発 ○地元学の推進による創造的地域づくりと担い手の育成 異業種連携による地元学の推進と域外への情報発信 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良質な農水産物の融合による特産品開発の推進 ○地産地消拡充の地場販売枠の設定と町内での販売・提供体制の確立 ○地元学の推進による担い手の育成・確保 	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p>
現状における取組実施の背景	<p>地元産ホタテ・タコ等の水産物を使用した加工品が遠別町には少ないという視点とタコ型のウィンナーはあるが、本物のタコを使用したソーセージは見たことがないという素朴な発想から研究・開発がスタート。遠別農業高校でサフォーク種羊を使用したソーセージ製造の技術を有していたこともあり、専門機関や関係機関等からの助言・協力をいただきながら、世界的でも例のないミズダコを原料とした新たな加工品を製造・開発に取り組んだ。</p>	
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな特産品による地産地消と消費拡大、地域の知名度向上。 ○地域資源の掘り起こしと地域学による郷土愛の育成と担い手の確保 <p>※数値目標の設定は現段階では困難。</p>	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大や生産性の向上を図るべく、民間事業者との連携協力体制の構築を目指して取組を進めたが、コロナ禍の影響もあってか頓挫してしまった。また担当教諭の人事異動や進級・進学等で高校内部の体制が変わったことや、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令などにより、研究活動できない時期もあり、道の駅での販売やふるさと納税返礼品の取り扱いも出来ず、12 月開催の遠別農業高校アンテナショップ内での販売のみとなってしまった。 	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により活動できない時期があり、取組の再出発を余儀なくされたため、現状での評価は難しいが、商品開発・研究を通して地域学による郷土愛の育成と担い手確保対策の一助となっている。 <p>※数値化は現段階では困難。</p>	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により活動できない時期があり、町内外へのPR・販路活動が遅れてしまった。 ○人員や体制が変わり、コロナ禍の影響も相まって情報交換や意識共有が難しくなってしまった。 	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ○販売・PRする機会や場所を増やすなどコロナ禍に対応した地道な活動。 ○連携協力可能な町内外の民間事業者を見つけ出して生産性の向上を模索していく。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の終息によるこれまで同様の日常生活。 ○民間事業者とのパイプ。 ○連携協力体制の再構築。 ○販売・PR活動機会の増加。 	

【遠別地域】

●地域の若者たちがつくる農林水商の枠組みを越えた相互連携（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農林水商の相互連携と産業の育成構想 地元水産物の域内消費の拡大、特産品の開発 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良質な農水産物の融合による特産品開発の推進 ○地産地消拡充の地場販売枠の設定と町内での販売・提供体制の確立 ○地元学の推進による担い手の育成・確保 	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	<p>少子高齢化、人口減少に伴う地域の担い手である若者不足が遠別町内の各産業でも顕著に見られ、農林水商の枠組みを越えた相互連携により、地域活性化に向けた取組を実践したいという共通認識のもと、平成29年に「青年部連携地域活性化実行委員会」が設立され、町内各産業団体主催イベントへの参加や地元産農水産物を使った特産品開発や販売PRのほか、町内社会教育事業と連携した漁業・農業の職業体験プログラムの企画運営事業などを行ってきた。</p>	<p>【取組の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和遠ミニ夏祭り」の様子（2021年7月17日開催） 
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ○各産業の枠組みを越えた取組による地域活性化策と担い手の育成・確保。 ○地元産物の消費拡大と付加価値の向上。 <p>※数値目標の設定は現段階では困難。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回花火大会」の様子（2021年8月15日開催） 
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが子どもの頃に見た大きな花火を今の子どもたちに見せてあげたいという想いのもと、昨年に続き花火大会を開催。当初予定では道の駅をメイン会場として、各種出店やステージショー等も含めた大規模なイベントとして実施意向であったが、コロナ禍の影響により、悪疫退散の名目で人を集めず、ステイホームでの観覧を呼び掛けて花火打ち上げのみ実施したほか、遠方の方でもリアルタイムで花火を堪能して貰えるようYouTubeによるライブ配信にも取り組んだ。 ・コロナ禍によるイベント自粛により、各種イベント参加、子どもの体験事業などが軒並み中止となったため、子どもを対象としてミニイベントとして縁日等の「夏祭り」を開催した。 ・今後、高齢者宅の「除雪ボランティア（2月頃）」や「ミニ冬まつり（2月頃）」等の企画を実施予定。 	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により様々な制限がある中で全て事業中止を決断するだけでなく、その中でもできる活動を模索して活動しており、地域のリーダーとなる存在や今後の担い手確保対策の一助となると想定される。 ○異業種間交流により、相互の産業や仕事、人の繋がり等自分が暮らすまちについて認識を深める機会となっており、郷土愛を高める契機となっている。 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的な地域活動・ボランティア活動により、メディア露出も増えてはいるが、地域での認知度を更に高めるため、情報発信を強化する必要がある。 ○自主財源の確保。 	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的な活動PRとメディア戦略。 ○先進地となる他市町村団体や民間企業等との情報交流による外部刺激。 ○町内企業等からの協賛金集め、クラウドファンディングの実施。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の終息によるこれまで同様の日常生活。 ○他市町村や民間企業とのパイプ。 ○町補助金に頼らない自主財源の確保。 	